



『 ステンとサス 』

業界用語ではステンレス鋼のことを『ステン』とか『サス』と省略して呼んでいます。ステンレス スチール (Stain-less Steel) の名称は90年ほど前に生まれました。それは1914年ごろ、イギリスのトーマス ファース社が新しい素材に付けた商標でした。その素材は食卓用ナイフに最適なステンレス鋼で刃物用です。キャッチフレーズは『ナイフ使用后、水洗いだけで充分。』です。

これ以前、ナイフやホークの保管はさび発生のため、大変な手間を要していました。当初は、鍛造のむずかしさと焼き入れ方法の違いから、刃物鍛冶に敬遠されましたが、熱処理の工夫により、新素材がナイフ用に使われるようになりました。好評を得て売れ始めると、同業他社が良く似た素材を色々な名前を付けて発売しました。その名前には、『ノン ステイン』(Non Stain Steel) や『アンチコロ』(Anci-Corro) などがありました。その素材は、現在、JIS規格のSUS420J1 に相当する、クロム 13% 炭素 0.15 % 以上を含むものです。

19世紀末から、さびない鉄の研究開発が、イギリス、ドイツ、フランスで活発に行われましたが、イギリスのこの刃物用ステンレス鋼が、商品として売られた最初ではないかと思われまます。

さび(ステイン)の発生しにくい素材を、省略好きな日本人が『ステン』『ステン』(ごみ、よごれ)と表現するのは奇妙なことです。

『サス』というのはJIS規格の鋼種名、SUS304とかSUS316が一般的によく使われるので、そのSUSを『サス』と言って、ステンレス鋼を代表させていますが、ステンレス鋼でもSUH(耐熱鋼)、SCS(ステンレス鋳鋼)、SCH耐熱鋳鋼)などもあります。

ちなみに、SUSの意味は以下です。

S : Steel --- 鋼
U : Use --- 使用
S : Stain-less --- ステンレス

ステンレス鋼のことは
お気軽に何なりとご相談ください。

今年もご愛読ください



参考図書

ステンレスのおはなし 大山 正 他 日本規格協会 1991年
ステンレス鋼発明史 鈴木 隆志 アグネ技術センター 2000年

むらの鍛冶屋[®]

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>



何でもお気軽にお尋ねください！！